

見た目は似ていても・・・

オオバギボウシとバイケイソウ(有毒)、ヒメザゼンソウ(有毒)

実際にあった事例

バイケイソウ類を食用のオオバギボウシと誤認して採取し、おひたしにして食べ、中毒を起こしました。



オオバギボウシの芽生え

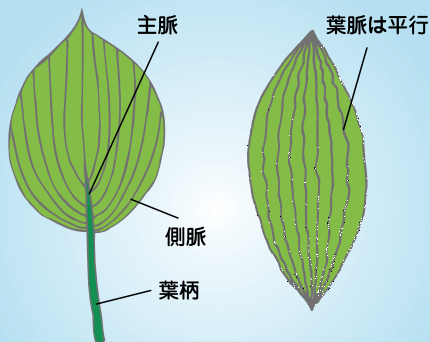
オオバギボウシの芽では、葉は巻いています。



有毒

バイケイソウの芽生え

バイケイソウの芽では、葉は折りたたまれています。



オオバギボウシ

バイケイソウ

バイケイソウ(ユリ科)

バイケイソウは草丈1～1.5mになるユリ科の多年草で、深山の林の湿った所に群生しています。7月頃、茎の先に白～緑色の小花が集まって咲きますが、花を付ける株は数が少ないようです。

植物全体にプロトバトラリンなどのアルカロイドを含有しており、誤食すると、おう吐、下痢、血圧降下、けいれんなどの中毒症状が起きます。

オオバギボウシの葉脈は主脈があり、そこから側脈が出ているが、バイケイソウは平行脈で、葉の付け根から先端にかけて各葉脈が平行なんじゃ。



有毒



オオバギボウシの芽を切り取ったもの
若い芽では葉柄は伸びていません。

バイケイソウの芽を切り取ったもの

有毒



花期のオオバギボウシ
成長した葉には長い葉柄があります。



有毒

成長したバイケイソウ
成長しても葉柄はありません。



コバイケイソウ (ユリ科)
コバイケイソウはバイケイソウよりやや小型で、高山や亜高山帯の湿原に自生します。
バイケイソウと同様のアルカロイドを含有し、誤食による食中毒が起きています。

実際にあった事例

ヒメザゼンソウを食用のオオバギボウシと誤認して採取し、ゆでて食べ、中毒を起こしました。

ヒメザゼンソウ(サトイモ科)

ヒメザゼンソウは北海道～本州の多湿地に生える多年草です。葉は花より先にて、初夏に花が咲きます。

シュウ酸カルシウムを含有し、誤食するとシュウ酸カルシウムの針状結晶による物理的な刺激により、唇のしびれ、口腔内の腫れ、胃痛などを起こします。

有毒



ヒメザゼンソウの若い葉
(左上1枚は別植物)

有毒



ヒメザゼンソウの展開した葉

写真提供：厚生労働省HP